Bulletin of Beppu University Junior College, 26(2007)

論　文

保育現場のニーズと保育士養成現場での取り組み
― 担当授業での試み ―

佐　藤　慶　子

Needs in On-site Childcare and Approaches to On-site Nursery Teacher Training
― Practical Trials in Childcare Classes ―

Keiko SATO

はじめに

1998年に改定され，2000年４月から実施されている幼稚園教育要領，保育所保育指針の内容においては，前回の改定内容に保育者の役割について，付加されている点が多い。例えば，幼稚園教育要領第１章総則では，「教師は一人一人の活動場面に応じて様々な役割を果たし，その活動を豊かにしなければならない」又，保育所保育指針では「保育者の姿勢とかかわりの視点」についても付加されている。このことは，教育・保育にかかわる保育者への関心と同時に，保育者の役割について，社会的なニーズと期待が込められているのではないかと推測される。現に，保育者養成機関についての期待と共に，学生への指導内容についての指導不足や不満の声が聞かれるのも事実である。

これまで，幼稚園現場で実習生の受け入れや，新任保育者及び臨時講師を指導する側にいた筆者として，筆者自身の養成内容の見直しと共に，保育者の質の向上に結びつく授業の取り組みへの試みを述べたい。

１．保育者養成への期待

近年多くの幼稚園・保育所では，即戦力としての保育者を各幼稚園・保育所で採用をする際の第１条件とし，質の良い保育者を獲得し，保護者への高感度をアップし，その先にある園児獲得増加への期待を込めていることが伺える。

以前は，保育者への夢を抱き，ある程度の技術を学び採用試験に合格した保育者をそれぞれの保育現場で，じっくり育て，より良い保育者に職員皆で育て上げるといった状況があったが，今は，「何でもできる保育者」「ピアノが上手な保育者」のニーズが強いことを改めて感じる。

人件費は経営する側にとっては，大きな負担であることから人的配置についての余裕はなく，勤務時間もあるようでない状況が一部の園である。仕事をテキパキこなすことが出来ない保育者は不能な人材として，即，解雇ということは人権尊重の意味からも，労基法等からも考えられないことだが黙認されている世界である。では，どのような保育者が保育現場で求められているのだろうか，現場の声から保育者像を抜粋して見ることにした。

① 明るく元気で笑顔を絶やさない保育者
② ピアノが上手で，いつでもその状況に応じた曲が弾け歌の上手な保育者
③ 指示を出さなくても，自分で仕事をみつける保育者
④ 室内外の環境を清潔に保つ保育者
⑤ 四季折々の季節を感じさせる環境に心がける保育者

⑥　指導案や研修に関する書類をきちんと提示することができる保育者
⑦　楽しい企画ができ，地域へのアピールが上手な保育者
⑧　子どもの前で，即座に手遊び・ゲーム・読み聞かせ等対応ができる保育者
⑨　事務処理能力が優れ，パソコン等が使える保育者
⑩　子どもの思いを捉え，その思いに共感し対応する保育者
⑪　保護者の悩み等，相談を受け，適切なアドバイスができる保育者
⑫　病気や安全対策などに気を配り，予防や対応が速やかに出来る保育者
⑬　地域の方とのコミュニケーションを図り常に子ども達とのふれあいに心がけている保育者　等々

保育者に期待される能力は数限りない。

では，このことが，２年間の保育者養成内容で，どのように達成されるものであろうか，入学当初の学生の意識調査の中で，学生の学びたい思いを知り，指導内容につなげていくことにした。

２．入学時の学生の期待

入学した学生46名に，「この大学でどんなことを学び，どんな保育者になりたいですか？」と記述のアンケートを提案した。どの学生も，期待を込めて２年後の自分をイメージしながら，思いを綴っていた。

「２年後の自分も今と変わらない気持ちでいたい。」「今と変わらず保育者という夢を持ちその夢を叶えていてほしい。そして，２年間で数多くのことを学んで専門知識も身に付け保育者としてやっていける力量を持っていたい。そして，保育者となり，たくさんの子ども達とふれ合って，日々一緒に成長していきたい。」「人間死ぬ瞬間まで学ぶことがあると中学校の先生が言っていたので，その瞬間までにたくさん学んで，そのことを子どもたちに伝えていきたい。また，逆に子ども達が伝えようとしていることをわかってあげられるような，そんな保育者になりたい。」という内容であった。又は，ピアノを練習して，子どもと楽しむ保育者になりたい。・いろいろな手遊びや歌遊びを覚えて子どもに教えたい。・研究会に入り，友達を多く作り，子ども達との遊びを考えたことを保育現場で活かしたい。・幼稚園に勤めて毎日子どもと元気に遊びたい。等，楽しい保育現場のイメージをして，自分の将来に夢をもち期待を込めて考えている事実を把握した。

しかし，学生に「幼稚園ってどんなところ」ということで園のイメージを絵に表現させたところ具体的に園の様子が描けた学生は46名中15名程で，幼稚園の環境がイメージできていないことがわかった。

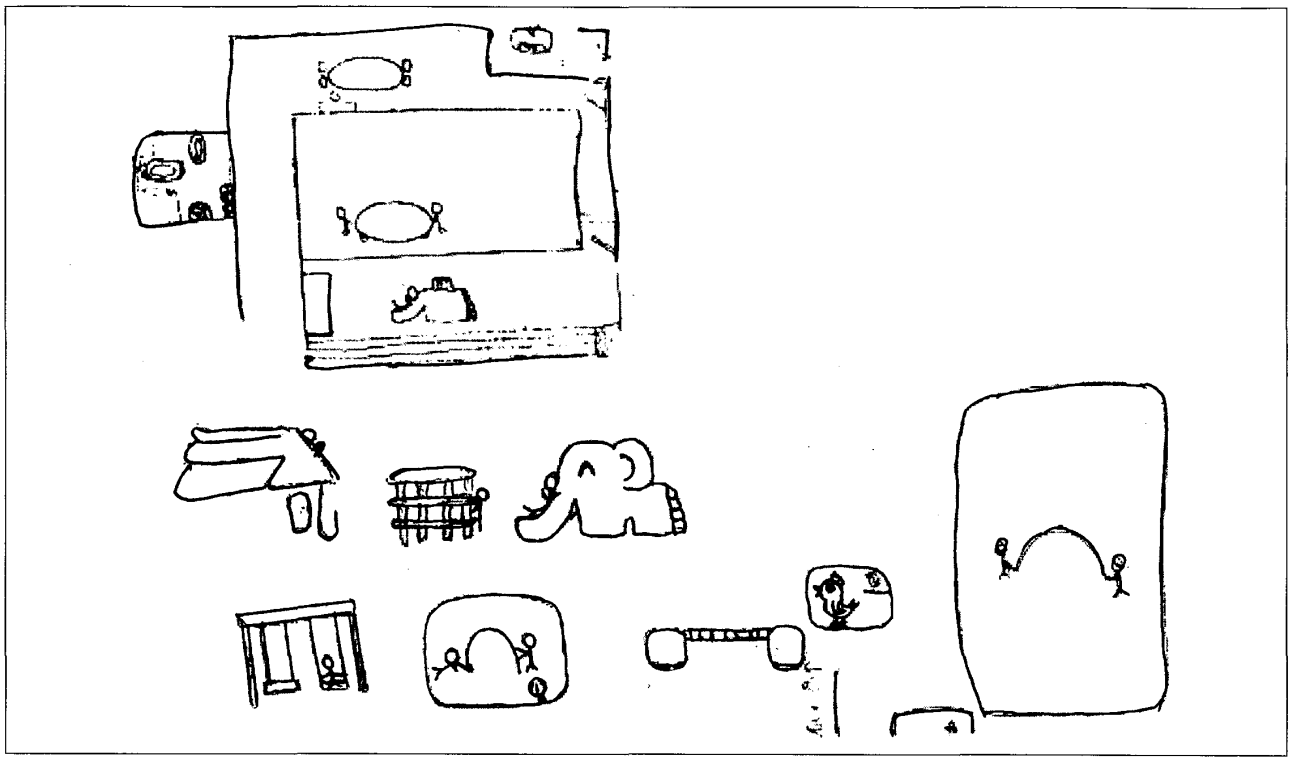
この現実から，いかに保育現場の様子を知り，保育のイメージが一人ひとりの学生に描けるかという課題も見つかった。参考資料①

３．学生が捉えている保育内容を知る

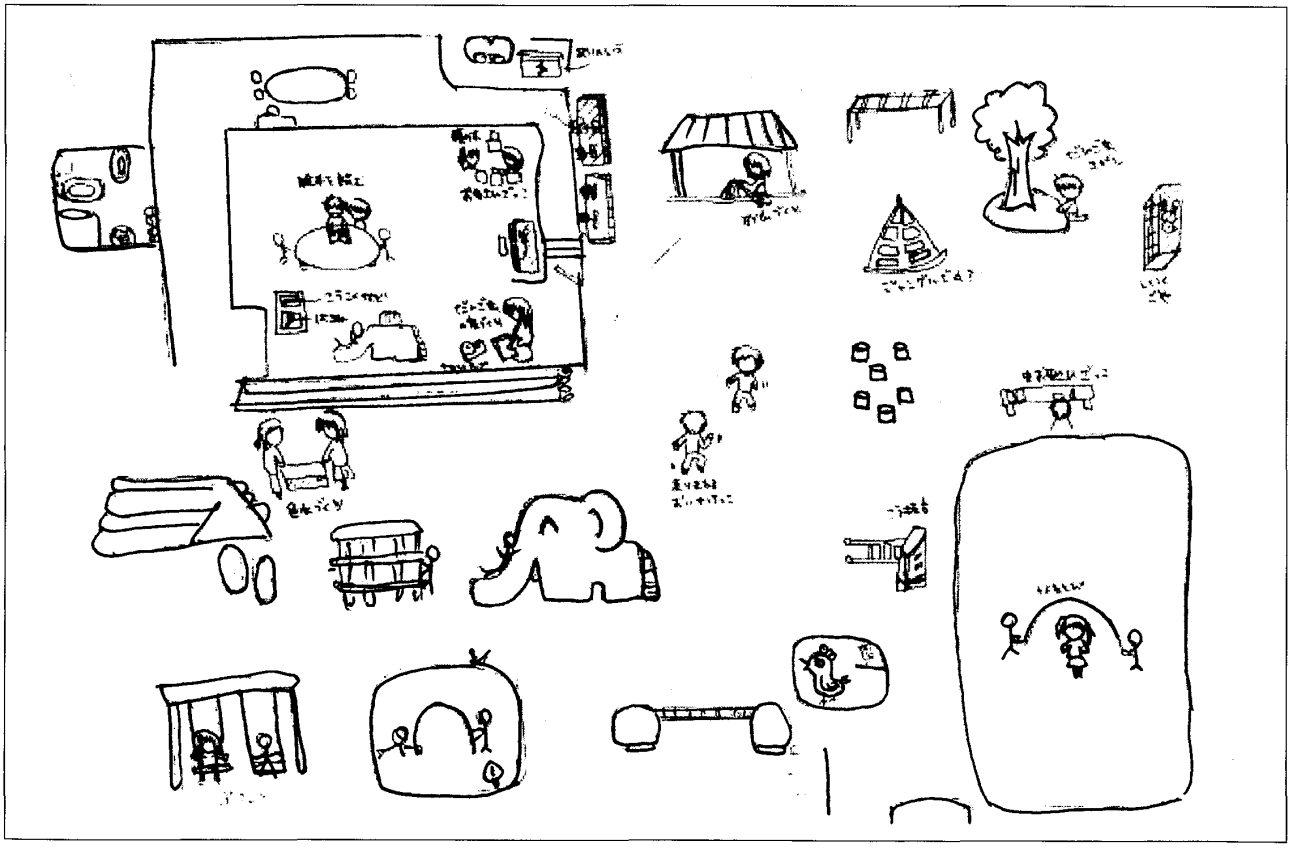
学生が保育者をめざし，保育者養成校に入学した多くの理由は「子どもが好きだから」「幼稚園・保育所の先生が好きだったから」である。学生自身の乳幼児期の体験・ボランティア等で子どもとかかわった経験から，子どもにかかわる仕事に就きたいということが多いのだが，中には，自分より小さい子と遊んだことがないから，子どもとかかわりたいと思ってという学生もいる。そこで，保育者になったらどんな仕事をするかということが，自分が体験した中でのイメージで考えられ，指導技術・テクニックのみの仕事内容でピアノが弾ける・手遊びが上手であれば素晴らしい保育者，そうでなければ，保育者としては失格ということというような錯覚をしているのではないかという状況が伺える。

もちろん，指導技術は子どもとのコミュニケーションや子どもの感性を豊かに育てるためになくてはならない必須の内容であり遊びの豊かさや児童文化伝承に大切な役割を担っていることは確かである。しかし，学生自身が幼児期や

参考資料①　保育環境のイメージづくり
　学生が当初イメージしていたもの



授業後にプラスできたイメージ



これまでの育ちの中で，文化的なふれあいを体験していない学生が多いのも事実であり，その育ちを早急に補填していく対応も考慮しなければならない。

２の例をあげ今どきの学生の一面を垣間見ることにした。

＜子ども達にお話できるかな？＞

保育内容Ⅳ「言葉」の授業の児童文化の伝承の項で，子どもの頃どんなお話を読んでもらったか，どんなお話を覚えているかということを投げかけ，「自分の知ってる昔話を，最後まで話せるか」と質問をしてみた。出来ると答えた学生は50名中４名だった。「自分の知っているどんな昔話でもいいんだよ」という声かけに「最後まで話せんよ，だって途中で，話の内容がどうだったか，ごちゃごちゃになって，話す自信がない」というのが大半だった。

具体的に示すと，白雪姫のお話のはじめの部分がどういう場面で始まるか？そしてシンデレラ姫とごっちゃになって，最後の王子様とのハッピーエンドだけが，一緒という具合である。

また，赤ずきんのお話は？と聞くと何で赤ずきんになったのか，名前の由来の所でわからなくなって，おおかみから食べられたのか，どうなのかで，終わりきれないとかである。話せない理由をいろいろな理由付けで発表していたが，学生の経験してきたものが，かなり希薄で，溜め込みがない為自信がない。また，そのことを基本的に掴まないまま授業を進めていくと基本がないので，積み重ねることができない状況である。自分にこれだけは自信があるというものを持っていない学生には昔話ひとつにしても，あやふやさの中で，物事に対する意欲や自信が失せていると状況を感じた。

＜どう，応えていいかわからない＞

また，保育・子育て相談の一番大切な相談者とのコミュニケーションの第一である電話の受け応えを問いかけた場面では，「もしもし，○○幼稚園ですか？」という問いに「あー，そう」と真顔で答える学生。あいさつもなし，幼稚園名も言わず，気のなさそうに答える職員役の学生に「自分が相談者なら，今の応答で良かったですか」というと「どんなふうに応えたらいいか，わからない」と返ってきた。授業の中で，理論的な内容と，具体的な例をあげた後の，ロールプレイでの姿であるが，授業以前の人としての道徳的，文化的溜め込みのない状況で授業内容を重ねても吸収しにくい状況がはっきり見え，その部分の溜め込みを今，知らせていく作業的な内容が必要であると感じた。そこで，事例１・２に関しては，物語の原作を読み聞かせ，ベースを知った上で，各出版社が対象年齢や内容を踏まえてのアレンジがなされていることを知らせ，物語を一つ一つ確実に記憶修正していくことを気づかせた。

また，電話の応対については，電話の向こう側で，どきどきしながら，電話をかけている相談者の気持ちや部外者についても，心から丁寧に受け応えをする気持ちや，言い方なども含めて，再度，全員で電話対応の練習をしてみた。

このように，一般の社会人からみたら，学生のこのような非常識的な物の考え方や溜め込みのなさを嘆いて，あきらめてしまいがちであるが，保育者養成現場では，そのひとつひとつをそうなのかと，実態把握し，足りないものを補給しながら保育者としての専門的な知識を加えていく重要な役割があるように思える。

４．学生にプラスできるもの

それでは，学生に不足しているものというと，一例ではあるが，遅刻をしない等生活習慣の確立から，印鑑の押し方等事務的なもの等の一般常識の欠如等が考えられるが，よくかかわってみると社会に出て行く準備として，それぞれの家庭で育まれてきたものがない。ということではないかと思われる。そうであれば，なにも知らない学生に保護者のように口うるさく指導していき，周りに迷惑をかけずに，様々な手続きが完了していくことを大学の授業の中でも知らせていくことが必要になってくる。現に大学では，一人一人を丁寧に指導し，様々な相談相手になり，学生の生活全般について，関わっている状況がある。しかし，それだけでは，主体性

のない依存心の強い社会に通用しない人間になりうると考えた時，いかに，学生自身の意識変革と将来のなりたい自分のイメージ力をつけさせることが大切であると思った。

２年生の実習を終えた学生の意識調査では，卒業してどんな保育者になりたいか，そのために今，どんなことを努力しているかということでは，具体的にイメージできた内容での回答が寄せられている学生とそうでない学生がはっきりしてくる。では，なぜ，具体的にイメージ出来ないのかという点では・自分の理想と現実である就職への認識が甘い・自分の頑張りで就職したいというエネルギーが伺えない・学生自身の基本的な生活習慣が出来ていないため，体力的な持久力がない。等保育者に必要な条件をクリアーできない基本的な力の欠如が見られるが，保育者を目指して学習している状況の中で，子どもに対する愛情だけはどの学生もあふれているので，その思いに期待しながら様々な保育者として必要な体験を取り入れて具体的に実践していく大切さを更に感じた。

では，実際に毎日，生活を共にしているお母さん，歌って踊って遊ばせることが上手なお姉さんと保育者は，どこがどう違うのだろうか。

５．一般企業での取り組みの中で

就職先の保育現場だけでなく，民間の企業でも，自分がどう生きてゆきたいのか，どんな目的で仕事をしていくのかは重要な評価である。自分の置かれている立場や役割を意識しながら全体の中で動くこと，その関係の中でより良い発想を提案しながら，職場全体が高まっていくように，そしてその中心にいる子どもや，顧客のためになることが最大の仕事であると思われる。となれば，学生の頃から，現場での空気にふれ，雰囲気を味わい，イメージしやすい環境の中で学び，意識していくことが，大事であると考える。その中で感じたこと，心を動かしたことのみが，意識となって自分自身の成長を高めていくのではないかと考えるのである。

そこで，保育の場の空気を直接的に吸収できる各保育所・幼稚園での実習体験で視点をもって子どもと関わる中で，子どもの思いやその子の発達というものを感じ取り，その子の今の時期にどういうことを大切にしながら，接していけばよいのかということが学生一人一人に体験できるようでやはり，実体験が保育者養成には有効だと実証できた。

自分が保育をするという意識があれば，子どもにこんなことを教えてあげたい。愛情をかけてお世話したい。という事から，自分のできる技術的なことを学ぼうとすると思うが，保育者の役割は子どもを育てることが重要なことで，どのような子どもを育てるのかということに着目しないと，指導技術・テクニックにはしり肝心な子ども育てが出来なくなるのだということを常に意識しておかなければならない。

幼稚園教育要領が示すもの

ここで，改めて教育要領を見直してみると

①幼児が安定した情緒の下で自己を十分に発揮できるようにすること。

②幼児の自発的な遊びを通しての指導を中心として総合的な指導を行うこと。

③一人一人の発達に応じた指導を行うこと。

このことから，保育者の専門性は「一人一人の幼児の内面を理解し，信頼関係を築きつつ，発達に必要な経験を幼児自らが獲得していけるように援助する力である」

《文科省―保育技術専門講座資料》

まさに，保育者の力量をつける内容は現場や実践にあると言える。

６．学生にとって大切な経験

１．自分自身が大切にされ，癒されるという体験

２．自分だけの思いや考えだけでないことに気づく

３．自分が一人で生きていくことのイメージングをする

４．一人で子どもの前に立ったときに自分が自信をもって出来ることを溜め込む

５．迷惑をかける事，感謝する事を感じる。

7．よりよい体験ができるために

以上の学生の実態から，授業改善のめやすとして，「心が動く，体が動く」ということをメーンに取り組んでみた。わくわく，どきどきすることや，深閑とした中に身をおくこと。自分の体のすべての感覚を感じて体を動かしてみる。その中で，静かさ，にぎやかさ，暗闇の世界を感じたり，友達との距離感，肌のふれあい，信頼感，間合い等を感じる体験の必要さを様々な活動で試みることにした。

①自分の立ち位置を知る

・生涯学習社会の構造から

学生は，社会全体の中で今，どこの所属にいて，これから，どんな所属になるのか意識をしていないので，生涯学習社会の構造図を示し，様々な部署の役割と自分がどこに所属しているのかを，図の中で把握することが大切であると思う。自分がこれから，どのように人生設計をしていけばよいのかという計画も意識できるのではないかと思われる。

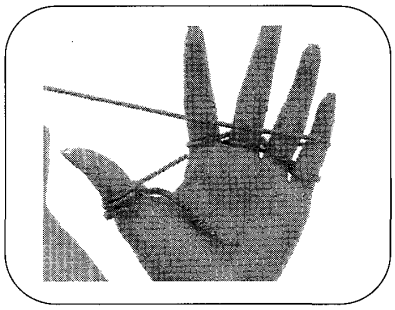
②感性を育てる教材

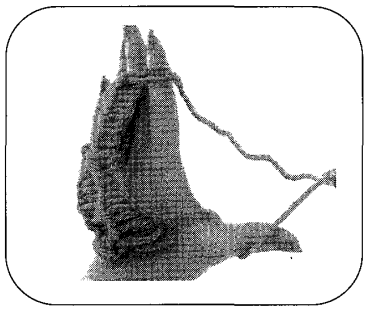
今まで，培ってきた感性を意識させる体験を多く取り入れる。その中で，多くの素材にふれながら五感を働かせる体験をさせる。五感を研ぎ澄ませて，遠くの音を聞く，においを嗅ぐ，指先を使っての感触を楽しむ体験その他，視覚，味覚などを取り入れた話の中でそのことが，知識から知恵にかわるような素地づくりをする。

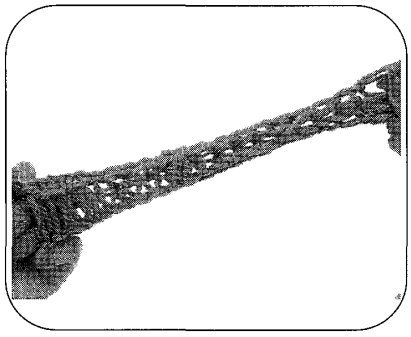
ア．指あみの体験

毛糸玉のぬくもりは，心温まる感触である。今頃は，手編みという経験も少ないことからあやとりの遊びも幼稚園での遊びで見られないことが多い。そこで，あやとり遊びと手軽に子どもにも出来る指編みを体験させ，毛糸玉にふれ繰り返し指で編むことで，長く編み上げられていく作品に感動し，うまく出来ない友だち同士で教えあう姿が見られた。

実践②ーア　＜指編み＞







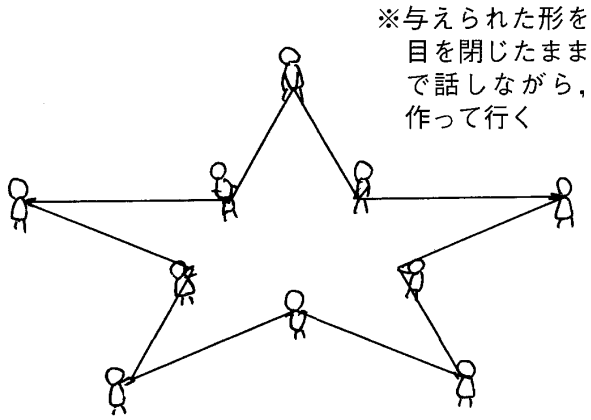
③人と人のかかわりを感じる体験

実際に人とふれあいながら，間合い，呼吸をあわせるというような実体験はできないのでゲーム的なプログラムの中で，人との信頼関係づくりを楽しむ内容を取り入れた。

ア．ロープを使って，形を作るゲーム

７～８人のグループ全員で目を閉じて出されたテーマで話しながら自分の役割の部位を

実践③ーア
＜ロープを使って形を作るゲーム＞



作っていき，人の動きと言葉自分のポジションを知る。目を開けて出来上がった形の意外さを楽しむ

イ．音を信じて，ゴールまで

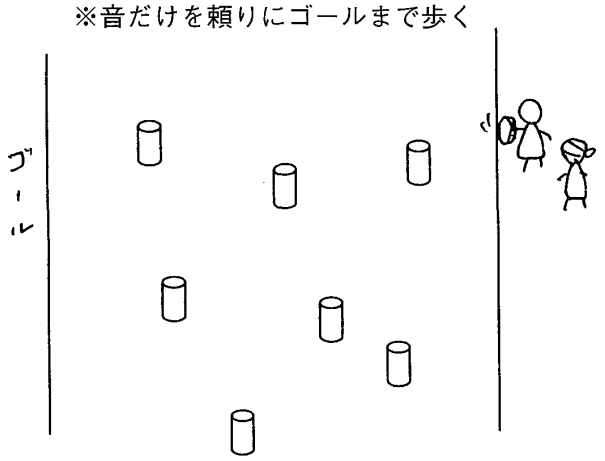
２人一組になり，一人は目隠し，もう一人は，音の出るものを耳元で鳴らしながらゴールまで，導く。途中には地雷と称したものを置き踏んだらアウト。相手を信頼して耳をすませ，体の全神経を研ぎ澄ませながら，楽しむゲーム

このゲームを終えた学生の感想として

・目を閉じるだけで，怖かった。動けなかった。
・友達の存在を空気で感じた。
・目を閉じると，友だちの音や声がすごく不安から救ってくれる。
・皆で，気持ちを合わせてすることが楽しい。

実践③ーイ

※音だけを頼りにゴールまで歩く



等，感覚を研ぎ澄ますことを体験できたようだ。

○時代を読む体験

社会情勢や，ニュースに興味を示さない学生が多いので，保育に関する話題や，若者の話題にふれながら，自分の事として，考えるくせが付くように話題提供し，考えを聞くようにしていると「今日は新聞をみてきたよ」「ニュースで見た」等少し興味を示すようになってきているようだ。

８．保育現場での意識変革

保育者の研修会などで，話す機会が多く本当に熱心に子どもの理解に努力し，子どもをじっくり豊かに保育していく保育者に保育現場でのニーズを聞いてみると，「技術的な事が出来る出来ないはあるが，何よりも子どもの事を考え，仕事を熱心にする人，周りの人と協力して温かく笑顔で過ごせる人が何よりです。その笑顔で子どもが温かく育ちます。」というお話だった。職員がお互いに，相手の欠点を言い合うのでなく子どもの事を第一に考え，保育者の温かい心で子ども達を育てていこうとする思いに感謝しながら，心ある保育者の養成ということを再度認識した。

おわりに

この１年の学生とのかかわりの中で筆者が過ごしてきた35年間の保育現場との意識の格差を感じて過ごしてきたが，やはり，社会的な志向の変化，家庭教育力の低下を強く感じる。

今の学生に家庭で補えなかったことを補填しながら，これから生きていく子どもたちにより良いかかわりができるよう保育者養成に携わる現場でアイディアを出しながらさらに，学生のスキルアップに力を注いでいきたい。

参考文献

高杉自子　「子どもとともにある保育の原点」
ミネルヴァ書房　2006